

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波有効利用方策委員会
VHF / UHF 帯電波有効利用作業班
放送グループ(第1回)議事要旨

1 日時

平成 19 年 3 月 7 日(木) 14 時 00 分 ~ 15 時 20 分

2 場所

総務省 902 会議室

3 出席者(敬称略)

(総務省)大野調整官、小泉調整官

(構成員)黒田放送G代表(NHK)、増田マルチメディア放送G代表(MJP)、
杉田アナログ放送G代表(JCBA)、小川デジタルラジオ放送Gサブ
(DRP)、放送G構成員

4 議題

(1) 放送グループの代表について

(2) 放送グループに課せられた課題について

ア VHF/UHF 帯電波有効利用作業班(第5回)の経緯

イ 必要周波数帯幅について

- ・ユーザーニーズの調査結果
- ・コンテンツの多様性の検討
- ・地域情報の必要性について

(3) 今後のスケジュール

5 議事要旨

(1) 放送G代表者について

増田マルチメディア放送G代表により開会された。

小川構成員(DRP)から、デジタルラジオGの代表が小川構成員から黒田構成員(NHK)に交代となり、小川構成員はデジタルラジオGのサブとして活動することになった旨の紹介があった。

増田マルチメディア放送G代表から、黒田、増田、杉田各G代表者間の互選の結果、黒田構成員が放送Gの代表に選出されたことの紹介があり、以後、黒田放送G代表の司会により審議が進められた。

(2) 放送Gに課せられた課題について(敬称省略)

ア VHF/UHF 帯電波有効利用方策作業班(第5回)の経緯(放 ad1-1)

黒田放送G代表から資料に基づき報告があった。

イ 必要周波数帯域幅について(放 ad1-2、1-3、1-4、1-5)

各提出者から、資料に基づき説明があった。

黒田 ニーズの調査結果と必要周波数帯域幅 35MHz 以下との関係はどう考えるか。

廣野 ニーズはあるものの、運用上及び伝送技術上の工夫により、35MHz であれば何とかまかなえるのではないか。

佐々木 地域的に番組を放送する場合には周波数の繰返しにより、有効利用を図るが、同じ番組を全国的に中継する場合には、同一周波数を使用する等周波数利用効率をもう少し上げるような方式も工夫して、最終的に 35MHz になんとか入るような方策をとりまとめていけたらいいのではないか。

田島(代理豊田) 地上波の割当てにおいては、日本全国で情報格差ができないような配置検討をしてほしい。特に、災害報道や生活情報は地域単位での発信が重要であり、各都道府県単位の割当てをはずさないようにしてほしい。

WG 事務局 放 ad1-1 の放送Gに課された課題の中で、+ で言われていることが2点ある。

きちっと中身を詰めてこないと $30 \pm 5\text{MHz}$ のマイナスの方はいくらでも良い。枠が確保されているわけではない。単にこのまま詰めていくのにはもう少し工夫があるかなと認識。

自営系との間で、全くシステムが違うためにガードバンドを用意しなければならない話になったときに、ガードバンドも自分たちの中で面倒見る必要があると言われている。家を建てる場合のセットバックが求められているという状況。

佐々木 ガードバンドについては、今回の検討周波数帯域の中であれば VHF G の段階で新規のものについてはある程度の仕切ができるように思うが、先ほどの VHF-TV の隣接帯域の公表されていない部分について、かなり難しいと危惧している。

(3) 今後のスケジュール

3月28日のWG開催までの検討期間が短いため、各Gにおいて案作成等の作業を行い、放送Gで議論・合意形成を行うこととなった。

【配布資料】

- 資料 2022-VU 作-放 ad1-1 VHF/UHF 帯電波有効利用作業班（第 5 回）の経緯
（放送 G 代表）
- 資料 2022-VU 作-放 ad1-2 ユーザーニーズの調査結果（NHK）
- 資料 2022-VU 作-放 ad1-3 ユーザーニーズの調査結果（伊藤忠、フジテレビ）
- 資料 2022-VU 作-放 ad1-4 ユーザーニーズの調査結果とコンテンツの多様性
（メディアフロージャパン）
- 資料 2022-VU 作-放 ad1-5 今後の VHF 帯において議論が必要な事項
（放送 G 代表）
- 資料 2022-VU 作-放 ad1-6 地域情報の必要性 （放送 G 代表）
- 資料 2022-VU 作-放 ad1-7 今後のスケジュール （放送 G 代表）

【参考資料】

放送グループ構成員名簿